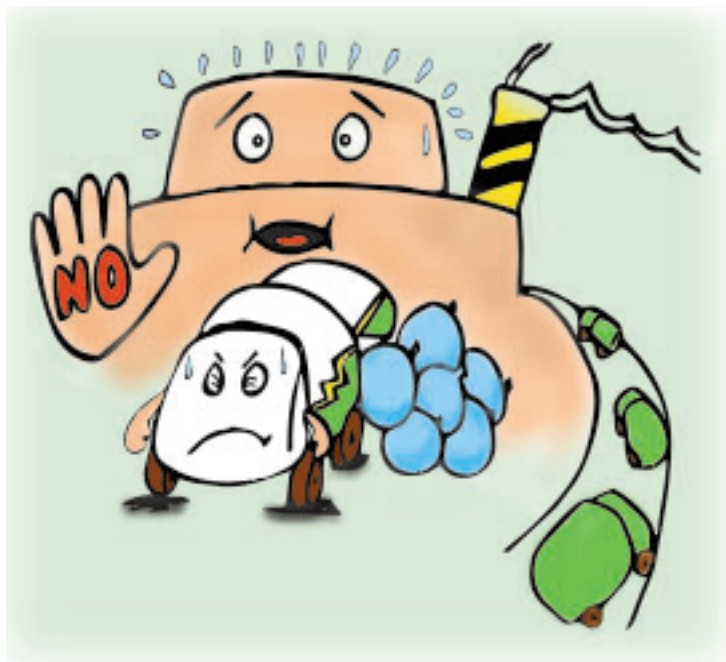


待ったなし！那覇市のごみ減量



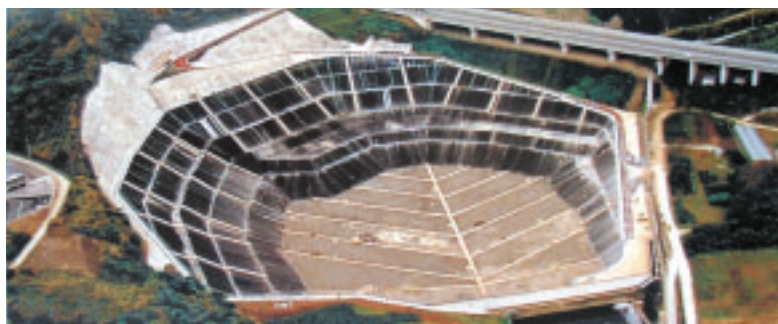
ごみ質・量・未分別・老朽化が拍車
ごみ焼却炉は限界状態

耐用年数すでに五年超過

市のごみ焼却炉は今年で建設後二十年になり、耐用年数は十五年程といわれていることからすでに五年を経過しています。このため、建設時に一日あたり三百トンあつた処理能力は、現在二二三トンと約二七％も大幅に低下する厳しい状況に直面しています。

処理能力の低下の原因は、施設の老朽化やごみ質の高力ロリー化によるものと考えられます。処理能力の低下やごみ量の増大によって処理できない可燃ごみについては、本年度分として浦添市と民間の処理業者へ二億五千万円の予算を使って委託処理せざるをえない状況にあります。

さらに、現在の焼却炉は新炉が完成する予定の平成十八年度までの向こう四年間、市民の出す可燃ごみを焼却しなくてはなりません。老朽化した焼却炉の延命化と委託予算を軽減するため、引き続きごみ減量と分別にご理解とご協力をお願いいたします。



容量70万トン・新設当初の最終処分場（8年前）



すでに8割も埋め立てられた現在の処分場

すでに容量の約八割を埋め立て

最終処分場への配慮を！

平成五年に設置された最終処分場もすでに八年が経過し、これまで約五十四万トンにのぼる大量のごみが最終処分場に埋め立てられています。

市の最終処分場の使用期限については、南風原町との「覚書」のなかで二〇〇二（平成一四）年十二月までとされているのに加え、現在までの埋め立て量が最終処分場の容量七〇万トンに迫っているなか、毎日約八トンの焼却残さや燃えないごみが最終処分場へ持ち込まれています。さらに、分別されないごみは埋め立て量の一層の増加や悪臭、ハエ等の発生源となり、地域住民へ多大な迷惑をかけることとなります。

市民や事業所の減量と分別の心づかいが、最終処分場と地域住民のみなさんへの負担軽減につながります。

集合住宅の分別のお手本Ⅱ県営三重城団地から

わが団地のごみ減量

ごみの分別でなかなか難しいのが集合住宅といわれています。そこで今回は県営三重城団地を訪れ、ごみ分別の奮闘ぶりをご紹介します。

県営三重城団地は約三五〇世帯、団地のごみ置き場は三カ所からなっています。以前はごみ置き場の散乱と悪臭が鼻につき、住環境を著しく損ねていました。そこで行動を起こしたのは、クリーン指導員の松葉まり子さん、奥平ハル子さん、宮城悦子さん、自治会から桑野七郎さん。四人が連日力を合わせ、早朝五時から夜間の分別指導に加え、置き場の清掃を行なう奮闘ぶりです。こうした取り組みの結果、今やごみ置き場は見違えるほどきれいになり、ごみの分別と住環境改善といった一石二鳥の成果が表れています。今後の課題として住み良い地域づくりのため、「自治会員の持ち回りでみんながやっつけてほしい」との要望等もありました。

集合住宅の分別は市の課題となっていますが、県営美田団地や県営安岡団地のみなさんも、置き場の指導を一生懸命頑張っており、自治会を中心とした分別の広がりが大きく期待されています。



置き場指導で
連日頑張る
松葉まり子さん
桑野七郎さん

家庭ごみの有料化について、ご意見をお寄せ下さい。

〒900-8585 那覇市泉崎1丁目4番10号
文教図書旧社屋ビル2階(公証人役場)
那覇市経済環境部 環境整備課 ごみ減量対策係
☎861-3952 FAX 862-9649
Eメール nahakan@m1.cosmos.ne.jp

8月20日より環境整備課は下記へ移転しました。今後もよろしくお願いします。

